

# 低用量アスピリンによる大腸がん予防と大腸内視鏡検査

40-59 歳で服用開始の男女の多くと 60-69 歳で開始の心血管疾患（CVD）高リスク者では大腸がん予防のための低用量アスピリンによる平均余命の延長が見込まれたことが、Annals of Internal Medicine に掲載されました。



アメリカ HealthPartners Institute のタスクフォースは、10年 CVD リスクが 10%以上で、出血リスクが高くなく、余命が 10年以上で、10年以上にわたって服用する意思のある 50-59 歳成人に対し、CVD・大腸がん予防のための低用量アスピリンを推奨しました（推奨度 B）。



低用量アスピリンと大腸内視鏡検査を組み合わせることにより、大腸がんのさらなる予防効果も期待されます。